

# 食文化や資源生かし活性化

## 中村県議と 豊橋、東三河の将来へ意見交換 愛知大生

豊橋市選出の中村竜彦県議と愛知大学学生による地域づくりワークショップがこのほど、豊橋キャンパスで開かれた。

豊橋市の「まちなか」を対象に研究や活動をしている地域政策学部駒木ゼミ3年生が参加した。東三河地域の将来像を考えるにあたり、若者との意見を政策に取り入れることが重要との意識から中村県議の要請で実現した。

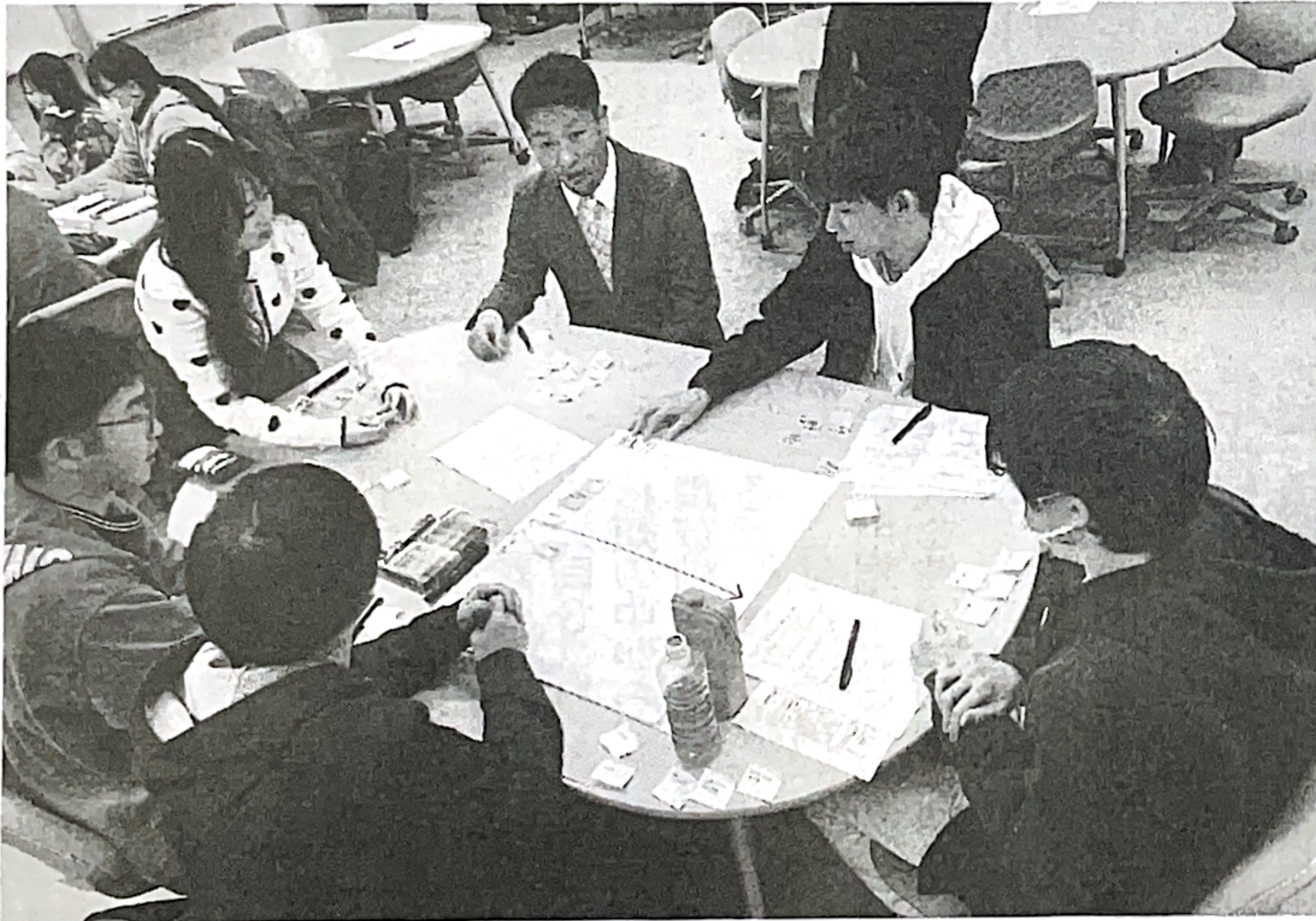
「豊橋・東三河の魅力と課題」をテーマにチームに分かれ、それぞれ今までの学習や経験などを通じて魅力や課題のトピックスを整理した。ワークショップには中村県議も参加し、和気あいあいとした雰囲気の中でディスカッションをした。

結果発表では、東三河の食文化を生かした観光振興や路面電車などの地域資源を活用した中心市街地の活性化、地域内外の住民を考慮した交通渋

滞への対応などに関する政策や取り組みのアイデアが披露された。参加した学生は「県議との意見交換を通じ、政策に対するの考え方や発想の仕方などを知ることができた」「豊橋や東三河、愛知全体が魅力であふれる地域になってほしい」などと話していた。

中村県議は「地域政策を学んでいる学生の皆さんが政策を考える前提として、地域への思い、誇り、憂いという、地域愛を持っていることに感銘を受けた。政治家として、

まちづくりについてディスカッションする中村県議(正面中央)―愛知大豊橋キャンパスで(提供)



この豊橋に地域愛を持っているかを再認識する機会となり、目からうろこが落ちた思い。学ぶことの多い交流活動だった。いま一度、豊橋へのアイデンティティを培い、若者の期待に応えるよ

う、議員活動に精進する決意を新たにしました」と述べた。そのうえで「今後、政治への志『真の政は市井にあり』を基に、市民の皆さまと共に活動を心掛けたい」と抱負を語った。